

私の学習法

高校受験に向けての取り組み
校長 島津 孝行
No. 1

高校受験に向けて当時の私がやった勉強法は、得意教科に力を入れる勉強法でした。

当時の私の考え方は、「国語と社会で180点以上取る。あとは数学・英語・理科で平均点とればいいや」という考えでした。

その1 社会の勉強法

当時は暗記すれば取れる配点が多かったので、とにかく教科書徹底暗記しました。ひたすら読む。ひとつの言葉、たとえば「大化の改新」という言葉が出てきたら、そのページの構成が頭に浮かぶまで暗記しました。ただし、年号を覚えたりノートにまとめたりは一切しませんでした。

全体の流れが歴史は大切だと思うので教科書暗記はけっこう有効でした。地理も同じように、「シラス台地」と出てきたらそのページには熊本、阿蘇山、カルデラ 鹿児島 稲作できず酪農 と言った言葉が同じページにあったと覚えました。公民も同じ。

机に向かって勉強するのが(というか貧乏だったので机がなかった。)嫌いだったので、よく利用したのが単語カードでした。寝っ転がってカードめくって勉強しました。

その2 国語の勉強法

国語は勉強しなかったけど、けっこうできました。今思うとやっぱり読書はほかの人よりしていました。ただし、単に本読んで国語ができるようにはならないと思います。本読みながらいつも「どうして?」とか、「なぜ?」とか疑問を持ちながら読んでいました。作者に対して「ほんと?」という姿勢があった方が読みが深まると思います。

勉強はしなかったけど、国語のテストの解答は気を遣ってました。漢字・語彙問題・古文・説明文・小説文の順番で解いていました。要するに答えが必ず1つしかなくて悩まない問題からやりました。それから読解の問題は、問題文をしっかりと読んでポイントのサイドラインを引きながら答えました。たとえば、「抜き出しなさい」「文章中の言葉を使って答えなさい」これまったく違います。「なぜ ~ したのですか」の場合は「なぜ」だから、こたえは「~だから」で終わるなど答え方をかなり意識しました。

これは良くないことですが、国語と社会が得意だった私ですが、ノートはほとんどとらなかつた。今では大減点ですね。でも、授業中考えることをしないで、ひたすらきれいに黒板を写している人がいますが、それは全くダメです。特に国語は頭をいかに使うかが勝負だと思います。嫌いな教科は勉強しているふりしてよくノートをとっていました。好きな社会・国語は授業中先生の質問とかを必死で考えていました。それを家でまとめたりはしました。要は学習作業と勉強とは違うということを知って欲しいということです。 一つづー

私の学習法

高校受験に向けての取り組み
校長 島津 孝行
No. 2

前回のまとめ

1. 得意教科をさらに得意に！
2. 学習は机に向かわなくてもできる。単語カードの活用
3. 学習作業と学習（勉強）の違いを理解する。
※ノート書きながら別のことを考えているってよくあります。
4. 国語の問題は、問題文をよく読む。問いにあった答え方を！
解答の順番も考える。

その3. 絵に描いた理科

理科は実験は結構好きでした。どんな勉強したかあまり記憶にないのですが、実験内容や観察内容をよく絵にしていたと思います。下手な絵をたくさん描かされた記憶があります。でも、その勉強法だと平均点程度です。

その4. 単語の暗記に全力を傾けた英語

英語はほとんど平均点以上とったことがありませんでした。単語カードや単語をひたすら書きましたが、あまり効果がなかったのもそういうやり方ではなく、文の中で覚えるように文全体をたくさん書いた方が良いと思います。

その5. 数学の基礎 計算問題 と理論的にわかる図形

数学は全然ダメで、おそらく人生で最高点が60点ぐらいだと思います。なぜ、そんなに数学ができなかったかということも小学校の算数の計算がだめでした。応用問題の式はあっているのに答えが違うということがよくありました。計算能力大事です。唯一数学で自信があったのが図形問題。これは国語の文章と似ているので論理的に考えるとできます。

ということで、理科・英語・数学に関してはほとんどアドバイスができません。でも、それで何が言いたかったかということ

※テストで100点とらなくても大丈夫
※自分の目標は何なのか

ということです。

私は中学2年生で中学校の教師になろうと思いました。中学の教師になるには、大学を出て教員免許状をとればいい。別に東大に入る必要は無い。ただ、成績が良い方が選択肢は広がる。色んなことを選べるのは確かです。でも、満点とらなくてよい。比較するのは過去の自分とだけ。ほかの人は関係ない。順位も関係ない。常にライバルは自分だけ。

今日の自分に明日は勝て!

以上です。